

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立明保小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 90人

② 算数 90人

③ 理科 91人

5 留意事項

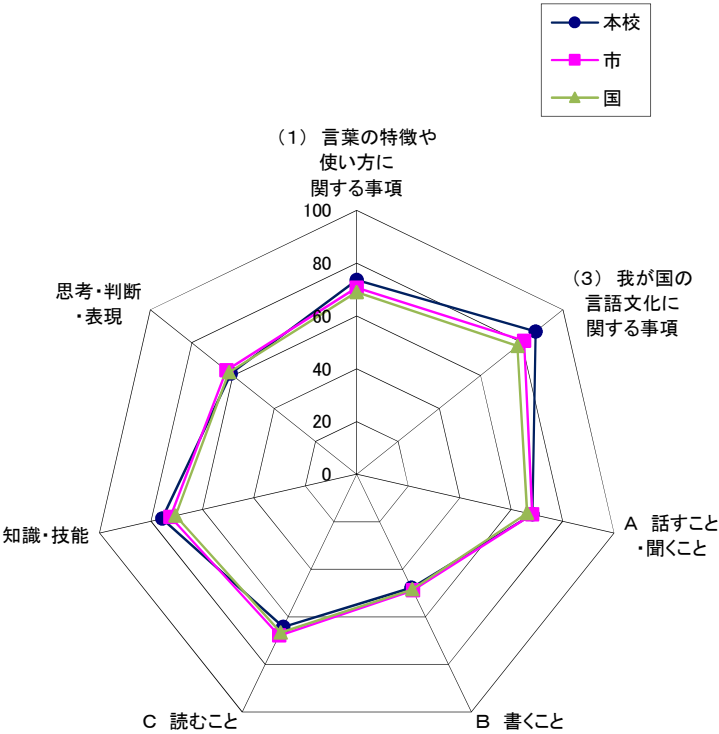
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立明保小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.6	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	86.7	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	68.3	68.2	66.2
	B 書くこと	47.8	48.9	48.5
	C 読むこと	64.2	67.9	66.6
観点	知識・技能	75.7	72.5	70.5
	思考・判断・表現	61.1	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

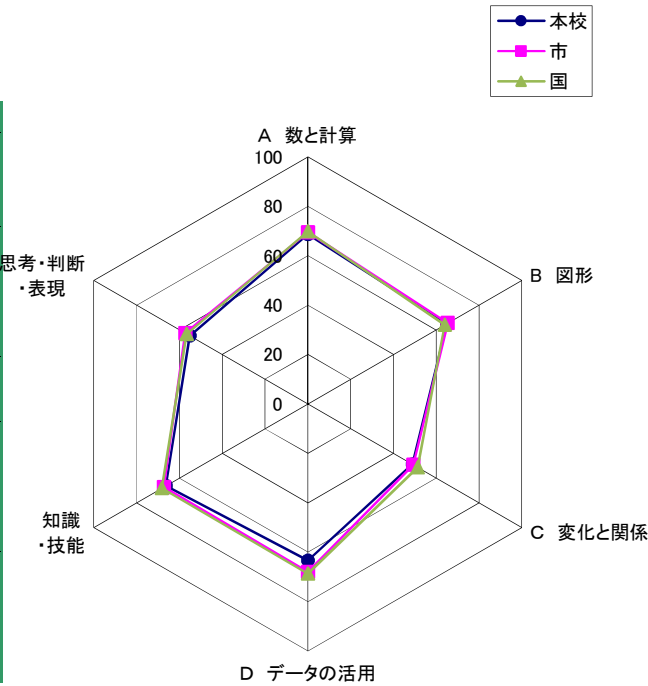
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	領域の平均正答率は、全国や県の平均と比較して4～5ポイント上回っている。 ○無回答率が全国や県の平均と比較してやや下回っている。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を分の中で正しく使う問題では、1問で国の平均を15ポイント上回っている。 ○言葉には、相手とのつながりを作る働きがあることを捉える問題では、県の平均を5ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、今後も効果的な指導法を工夫し、個別に支援するとともに、AIDリルを活用しながら文章内で正しく使えるように習熟を図る。 ・分からない問題があっても諦めずに回答できるよう支援を続けていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	領域の平均正答率は全国や県の平均と比較して5ポイント以上上回っている。 ○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題では、国の平均より8ポイント、県の平均より5ポイント上回っている。	・今後も読みやすい文や文章を書くためには、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことや、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことなどが大切であることを継続して指導していく。
A 話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は全国や県の平均と比較して1.5ポイント上回っている。 ○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題では、県の平均より3ポイント上回っている。 ●必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題では、県の平均より0.4ポイント下回っている。	・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめ、発表をすることは、他教科にも通じる学習の柱として、今後も相手を意識した発表をさせる機会を意図的に設けていく。 ・より良い発表につなげるためには、効果的な資料の選択や提示方法があることを示し、社会や理科でのまとめや、総合的な学習での発表機会を捉えて、資料の活用能力の向上を図る。
B 書くこと	領域の平均正答率は全国や県の平均と比較して1ポイント下回っている。 ●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、分野文章を整える問題では、県の平均と比較して4ポイント下回っている。 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題では、県の平均を2ポイント上回っている。	・文や文章を整えるためには、文章全体の構成や、書き表し方に着目して推敲することが必要である。また、自分の考えが明確に伝わるように、文章全体の構成に着目して文章を整えながら書くことができるよう継続して指導していく。 ・行事等を実施した後など、機会があるごとに自分の思いを書く機会を作り、日常的に文章を書く機会を設ける。
C 読むこと	領域の平均正答率は全国の平均と比較して1ポイント、県の平均と比較して2ポイント下回っている。 ○人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題では、県の平均を6ポイント上回っている。 ●物語の表現の効果を考える問題では、全国の平均を11ポイント、県の平均を10ポイント下回っている。	・自分の意見を持ち、多様な視点や考えをもちながら文章を読み解くことを示し、友達と伝え合ったり、話し合ったりする時間を設け、考えを広げたり、深めたりする経験を積ませる。

宇都宮市立明保小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.7	69.5	69.8
	B 図形	65.0	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	48.9	49.3	51.3
	D データの活用	63.3	68.0	68.7
観点	知識・技能	66.3	67.3	68.2
	思考・判断・表現	55.2	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好的な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

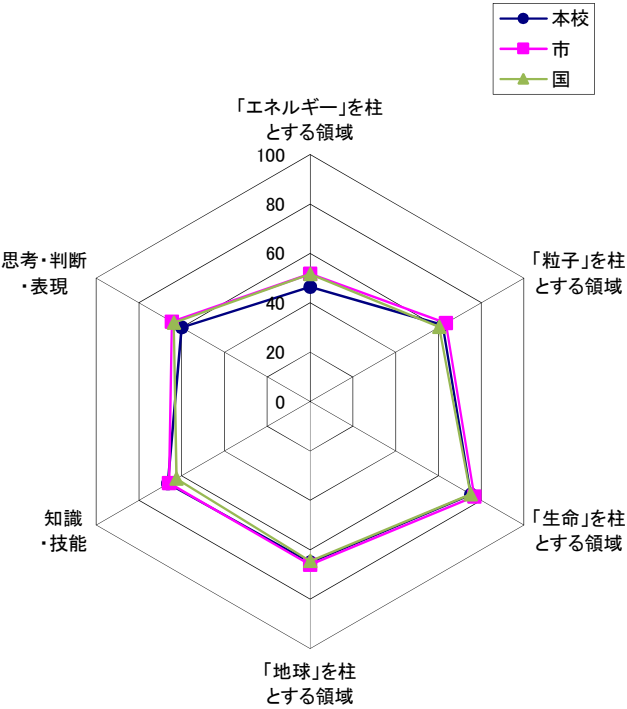
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	領域の平均正答率は、全国や県と比較してやや低い。 ○二つの数の最小公倍数を求める問題では、平均正答率が全国や県と比較して高い。 ●示された場面を解釈し、除法で求める理由を記述する問題では、平均正答率が全国や市と比較して高い。 ●加法と減法の混合したポイント数の求め方を解釈し、他の場合のポイント数の求め方と答えを記述する問題では、無回答率が8.9ポイントである。	・今後も、計算ステップアップ等を活用して基本的な計算の定着に向けた練習を継続するとともに、児童の状況に応じてやや複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ・割合の考え方に関する問題については、授業の中で適宜復習をしたり、AIDリルを活用し、理解度に応じて習熟を図ったりするなどして、定着を図っていく。
B 図形	領域の平均正答率は、全国と比較して1ポイント高い。 ○正三角形の意味や性質を基に、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する問題は、全国や県と比較してやや高い。 ○図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解しているか問う問題は、全国や県と比較して4.0ポイント以上高い。	・今後も、計算ステップアップ等を活用して基本の定着に向けた練習を継続するとともに、児童の状況に応じてやや複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ・図形の面積を求める問題については、授業の中で適宜復習をしたり、AIDリルを活用し、理解度に応じて習熟を図ったりするなどして、定着を図っていく。
C 変化と関係	領域の平均正答率は、全国と比較して2.4ポイント低い。 ○伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題では、正答率が51.1ポイントであり、全国と比較して3.1ポイント高く、県と比較して5.0ポイント高い。 ●百分率で表された割合を分数で表す問題の平均正答率が61.1%で、全国よりも10ポイント、県よりも8ポイント低い。	・速さの問題では、道のり・速さ・時間の関係、時速・分速秒速の意味や活用法をもう一度見直し、さらなる定着を図っていく。基本的なことではつまずいている児童には、児童の能力に合った教材や資料を用いて簡単な問題から取り組ませ、苦手意識のある児童の支援を続けていく。
D データの活用	領域の平均正答率は、全国、市と比較して約5ポイント低い。 ○表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求める問題では、平均正答率が74.4ポイントであり、県と比較して2.3ポイント高い。 ●目的に応じて円グラフを選択し必要な情報を読み取る問題では、平均正答率が56.7%で、全国よりも10.1ポイント、県よりも7.5ポイント低い。	・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることはできるので、複数のデータを示されたときにその関係性を読み取ったり、式に表したりするような複雑な問題を解決できるよう力も身に付けられるよう、基本的な問題だけでなく応用問題にも取り組ませていく。

宇都宮市立明保小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	46.4	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	62.0	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	75.2	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	65.1	66.1	64.6
観点	知識・技能	66.5	65.9	62.5
	思考・判断・表現	60.1	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	領域の平均正答率は46.4%で、全国の平均よりも5.2ポイント低い。 ●問題の中でも、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く問題では、変更点のみを記述する誤答が20.9%である。実験の条件設定について要点を把握し、記述する力が課題である。 ○光の性質を基に、正しい鏡の操作方法を選択する問題では、30.8%の平均正答率で、県や国の正答率より1.3～3.0ポイント上回っている。基礎基本の定着が図られている。	・実験を行う際には、何を調べるためにどのような条件設定で行うのかを明確にして実験を行わせる。また、実験を繰り返す中で、どの条件が変化したかや、条件を比較して正しく検証できているのかなどについても考えさせる。 ・基礎基本の定着を目指し、結果は何を意味してそこからどんなことが分かるかを考えさせながらまとめていくことや、用語の確認を繰り返し行うことを継続指導していく。
「粒子」を柱とする領域	領域の平均正答率は62.0%で、全国の平均よりも1.6ポイント高い。 ○観察・実験の技能についての平均正答率は69.2%であり、県や国の平均は71.9%と70.0%とほぼ同等である。メスシリンダーで液体の量を正しく測ることができたり、スポイトで加える水の量についても正しい回答を選択したりすることができた。 ●自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討する問題では、県や国の平均正答率を下回っている。予想や結果を基に考察し、考えをまとめる力に課題がある。	・実験のまとめを行う際に、正しい結果を出して、正答を書き写す作業になってしまわないようにする。今までの経験や知識を基に自分の予想を立てることや、友達との関わり合いの中で実験の結果を比較したり結果の妥当性について検討をしたりする活動を行っていく。 ・用具の正しい使用方法や、器具の名称を覚えるだけでなく、理科の見方考え方で物事を検証していく姿勢を培っていく必要がある。
「生命」を柱とする領域	領域の平均正答率は75.2%で、全国の平均よりも0.2ポイント高い。 ○昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明する問題では、76.9%と県や国の平均正答率より1.5～3.8ポイント上回っている。用語の意味や理解に定着が見られる。 ●昆虫の育ち方や食べ物の特徴から、二次元の表のどこに当てはまるか回答する問題では、県や国の平均正答率を下回っている。いくつかの条件を基に表を分割して見たり、縦や横の軸で見比べたりすることに課題がある。	・二次元表やベン図、樹形図など物事を分類整理するのに有効な表現方法を紹介し、様々な問題場面で活用する機会を設ける。条件によって分岐や分類をしたり、要素によって含まれたり兼ねたりするようなまとめ方を教科横断的に行っていく。 ・1つの事例から、「これはどうなのだろう」「このときはどうなのかな」などと、興味関心が広がるように学習を展開させていく。
「地球」を柱とする領域	領域の平均正答率は65.1%で、全国の平均よりも0.5ポイント高い。 ○鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く問題の平均正答率は49.5%であり、県や国の正答率は6.4～7.3ポイント上回っている。自分の経験を基に予測し、記述することができた。 ●観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、選択する問題の平均正答率は、35.2%であり、県や国の正答率より、7.4～9.3ポイント下回っている。結果から考察して、どのようなことが起きたのかを明らかにすることに課題が見られる。	・既習事項や経験を基に筋道を立てて説明したり、論理的に話すことで相手が納得できるように伝えたりする活動を多く取り入れるようにする。そのために、個人での考察を基に、小グループで話し合い活動をして考えをまとめたり、学級全体でやり取りをしながら結果を考察したりする時間を確保する。

宇都宮市立明保小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがある」と回答した児童の割合は85%で、全国平均を5.7ポイント上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童の割合は97.9%で、全国平均を10.8ポイント上回っている。授業や生活の中で活動の場を与え、やり遂げることで自信をもたせたり、励ましたりするなど、一人一人のよさを認め励ます指導の充実を図ってきた成果であると考えられる。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用している」と回答した児童の割合は93.5%で、全国平均を10.3ポイント上回っている。また、「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用している」と回答した児童の割合は85%、「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用している」と回答した児童の割合は52.7%で、それぞれ全国平均を8.9ポイント、3.3ポイント上回っている。教員もICT機器活用の研修を積み重ね、様々な授業で活用している成果の表れと考えられる。今後も、研修を重ね、教師・児童ともに様々な活用方法を習得していきたい。

○「読書は好き」と回答した児童の割合は81.8%で、県や全国の平均を約10ポイント上回っている。また、日常的に図書室を利用している児童も多く、読書への関心意欲が高い傾向にある。今後も、読書の時間や図書室の有効な活用を心掛け、読書の奨励に努めていきたい。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の設問に対しての肯定的な回答の割合が県や全国の平均よりも低く、基本的な生活習慣に対する意識が低い児童が見られる。学年だよりや学級懇談などを通じて、児童だけでなく保護者の意識付けを図ってきたい。

●「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」という設問に対して、3時間以上と回答した児童の割合が46.1%で、県の平均よりも17.4ポイント、全国の平均よりも15.4ポイント高い。テレビゲームの使用について、学校で指導するだけでなく、家庭でも見直していただけるよう周知していきたい。

●「新聞を読んでいますか」の設問に対して、ほとんど、または、全く読まないと回答した児童の割合は75.3%で、県や全国の平均よりも2ポイント程度高い。新聞を読む頻度が高いほど、教科に関する調査における平均正答率が高いという結果が出ていることから、今後、新聞に親しむための指導や授業における有効活用を図ってきたい。

宇都宮市立明保小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着	宮子学力ステップアップシートやAI型学習ドリルの活用を年間通して実施している。 家庭学習強化週間の設定や家庭学習啓発資料の配付を通して、家庭との連携を図り、主体的に家庭学習に取り組めるようにしている。 少人数指導や習熟度別学習など、学習形態を工夫することで、個に応じた指導を行っている。	基礎的な知識や理解に関わる問題における平均正答率は、県や全国の平均よりも高いものが多い。 「家で自分で計画を立てて勉強していますか」に肯定的に回答した児童の割合は、72.1%で県の平均よりも4.8ポイント低く、全国の平均よりも1ポイント高い。 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に対する肯定的回答割合は78.5%で、県や全国の平均とほぼ同じである。 少人数指導や習熟度別学習を実施している算数に関して、「算数の授業の内容はよく分かりますか」に対する肯定的割合は91.3%で、県や全国の平均よりもやや高い。 「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材・学習時間になっていましたか」に対する肯定的割合は83.8%で、全国の平均よりも4.1ポイント高い。
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善	授業の導入では課題を明確にし、展開ではソーシャルディスタンスの確保に留意しながらペアやグループで課題解決を行い、終末では学習のまとめや振り返りを行うことで、学習内容の定着を図っている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に肯定的に回答した児童の割合は68.8%で、県や全国の平均よりも約10ポイント低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、いくつかの情報を基に整理して書くような記述式設問における正答率が県や市の平均よりも低い傾向にある。	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、自分の考えを書く際に、字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなどの提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。さらに、始めから完璧な解答を求めず、児童に寄り添いながら思考の過程を励ますことで自信をもたせたり、友達の良い文章を提示して参考にさせたりし、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。
質問紙調査において、「学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対し、本校の目標とする1時間以上と回答した児童の割合は63.5%であった。(県の平均より4.4ポイント低く、全国より4.1ポイント高い。)	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	家庭学習に継続的に取り組むことができるよう、「家庭学習の進め方」等を活用しながら計画の立て方や内容についての指導を定期的に行ったり、「家庭学習カード」に取組内容や時間を記録させたりする。また、家庭との連携を図れるよう、啓発資料等を活用して保護者の意識を高められるようにする。 関心意欲を高める授業を工夫し、家庭での学びにつなげる働きかけをする。

